

アジア初！エアバス A321LR を導入 ～北東アジアの中距離 LCC の歴史を築く第一歩～

- ・ A321LR 2機の購入契約を締結
- ・ 日本からアジア全域をカバーする航続距離を実現
- ・ 2020年度内に受領予定

Peach Aviation 株式会社（以下:Peach、代表取締役 CEO:井上 慎一、本社:大阪府）は、7月17日、イギリス・ファンボローにて開催中のファンボロー航空ショーにおいて、エアバス社（民間航空機部門社長:ギヨム・フォーリ、本社:フランス・トゥールーズ）より、2020年度に進出する中距離 LCC 事業用の機材として、A321LR を2機導入することを発表しました。同機材を導入するのは、アジアの航空会社で初めてとなります。

Peachはエアバス社と2016年11月に締結したA320neo10機の購入契約を8機へ変更し、新たにA321LRを2機導入します。A321LRは、単通路型機のベストセラーであるA320ファミリーの最新派生型で、同ファミリーのA321neoをベースに開発されたモデルです。単通路型機としては、世界最長の最大航続距離7400km*1を実現するモデルで、日本からアジアの全域をカバーすることが可能になります。

このたび購入契約を締結した2機のA321LRは、2020年度内に受領する予定です。Peachは今後バニラエアを統合し、2020年度以降にA321LRを含む保有機数を50機以上、就航路線数を50路線以上へと事業規模を拡大してまいります。

A321LRの導入について、代表取締役CEOの井上慎一は、「Peachは日本初のLCCとして、日本における短距離LCC事業を成立させることにチャレンジし、5期連続で増収・黒字を達成するなど、日本の短距離LCCの歴史を築いてまいりました。Peachは自ら変化を起こし、進化を続けます。Peachの次なるチャレンジは中距離LCC事業への進出で、2020年度よりPeachが日本と北東アジアの中距離LCCの歴史を築いてまいります。2020年度のA321LR導入は、その歴史を築くための第一歩です。A321LRの導入と中距離LCC事業への参入を弾みに、アジアのリーディングLCCへの歩みをより一層加速してまいります」と述べました。

Peach は中距離 LCC 事業への参入により、日本とアジアのかけ橋を拡大し、政府目標の2020年に訪日外国人4000万人、2030年に6000万人の実現に向け、日本のインバウンド需要を牽引してまいります。



導入予定の中距離用機材 Airbus A321LR(イメージ)



ファンボロー航空ショーでの A321LR 購入契約の調印式の様子

【Peach が導入する A321LR の概要】

契約内容: 2機
納入時期: 2020年度第3四半期に初号機を受領予定
(以降、2020年度内に2号機を受領予定)
エンジン: 未定
装備座席数: 未定
航続距離: 最大7,400km(4,000海里)*1

【Peach が導入する A320neo の概要】

契約内容: 8機
納入時期: 2020年度第1四半期に初号機を受領予定
(以降、約2年間で2号機~8号機を受領予定)
エンジン: 未定
装備座席数: 188席(予定)
航続距離: 最大6,500km(3,500海里)*1

*1 燃料タンク等の仕様により異なる

[Peach について\(www.flypeach.com\)](http://www.flypeach.com)

Peachは、2012年3月に関西空港を拠点として運航を開始しました。2014年7月には那覇空港、2017年9月には仙台空港を関西空港に次ぐ拠点空港としました。現在、20機の機材で、国内線15路線、国際線15路線に就航し1日あたり最大約100便以上を運航するとともに、13,000人以上のお客様にご利用いただいております。さらに、8月1日には、大阪(関西)ー釧路線に就航します。